

■演題 12 当院で施行したLECSの4症例 (Closed LECS施行例を中心に)

代表演者：松村年久 先生 (津山中央病院 外科)

共同演者：[津山中央病院 外科] 橋本将志、窪田康浩、野中泰幸、林同輔

[津山中央病院 内科] 竹中龍太、藤木茂篤

[岡山大学病院 消化管外科] 西崎正彦、藤原俊義

当院では、平成 26 年 6 月より LECS を開始し平成 27 年 2 月現在まで、胃 GIST 及び十二指腸腫瘍に対して 4 例を経験した。その内の Closed LECS 施行例を中心に報告する。

(症例 1) 73 歳女性。胃 GIST (胃体上部前壁、内腔発育型、 ϕ 35mm) に対して、LECS を施行した。エシユロン青 60mm を 2 個使用し縫合閉鎖した。

(症例 2) 82 歳男性。十二指腸カルチノイド (球部後壁 ϕ 7mm)。全層切除となるように EMRC を施行後、穿孔部位を 3-OV-Loc で縫合閉鎖した。

(症例 3) 65 歳女性。胃 GIST (胃体中部大彎後壁、内腔発育型、 ϕ 13mm) に対して、Closed LECS を施行した。型取り ESD 法で腫瘍周囲に粘膜下層の剥離ライン作成。そのラインに合わせて漿膜面にマーキングを行い、同部位のサイズにトリミングしたセクレアを胃内腔に押し込みながら 3-OV-Loc で縫合閉鎖。内視鏡でセクレアを透見しながら全層切除を施行し、腫瘍を取り出した。

(症例 4) 59 歳男性。十二指腸腺腫 (下行脚隣対側、 ϕ 15mm) に対して LECS を施行。型通り ESD を施行したところ穿孔を生じたため、同部位の漿膜筋層を 3-OV-Loc で縫合閉鎖し、内視鏡下にクリップで粘膜縫合を施行した。